

## 「土砂災害のひがいを減らすには」

宇多津町立宇多津北小学校 6年 長本 大輝さん

ぼくがこの作文を書こうと思ったきっかけは、まえに土砂災害がおこったときに、一人死者がでたというニュースを思いだして、土砂災害は危険な災害の一つなんだと改めて思ったからです。土砂災害は地球にとって大切な自然からおこる危険な災害です。ぼくはひがいを少なくするためには、どうすればいいかを考えてたくさんの解決策を思いつきました。

一つ目は、くずれそうな所をほかのがんじょうなところから土や石などを持ってきてかためる方法です。それだったら、コンクリートなどの原材料を使わないので少しエコだからです。

二つ目は、木をたくさん植える方法です。これは、水をすったり、土砂をくいとめて土砂災害を防ぎます。

三つ目は、山のふもとにスコップみたいな形で、コンクリートをかためる方法です。これなら、土砂くずれがおきても、コンクリートでかためたスコップ型の物でくい止めることができます。

四つ目は、山にコンクリートのかべを作る方法です。でもこれは、大きな土砂くずれも防ぐことができるけれど、もしくずれたら、土砂くずれより大きなひがいになるので、安全とは言い切れません。

五つ目はいろんなところに大きな穴をあけます。これは、土砂くずれがおこったときに穴が埋まるかわりに、ひがいを少なくすることができるからです。

六つ目は、山のふもとにネットをはりめぐらせる方法です。ネットをはりめぐらせれば、土やどろなどを小さくしたり、大きな石などはひっかかったりして、ひがいを少なくすることができるからです。

でも、土砂災害は防ぎきれないかもしれません。なので、ふだんの心構えが大切だと思います。

①きけんな場所を知っていること。きけんな場所を知って大雨が降ったときなどは、そこを通らないようにします。

②ひなん場所への安全な道を知ること。安全にひなんできるように、ひなんルートを考えておきます。

③ひなん場所を決めていること。ひなん場所を決めていなければ、ひなんルートも考えられないし、家族と再会できないかもしれないからです。

ぼくは学校などのひなん所で数日間もすごすのは無理だと思います。理由は、町のほとんどの人々があつまってくるので、自由にはできないし、ひなんしてきた時にせいびされてなくても困るからです。それに、食べ物がないと買ってこることも出来ないし、毎日じっとまっているのはとてもつらいことだと思うからです。南海地震がいつ起こるか分からないというのを最近よく耳にします。これから先大きな自然災害がおこらない事を願います。今、東日本大震災でひなん生活を送っている人が多いですが、一日でも早くもとの生活にもどってほしいと思います。